



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (7月4~21日)

1. イラン人労働者の国外派遣 (7月4日付イラン・ニュース紙)

労働・協同・社会福祉省次官は、本年（ヒジュラ太陽暦 1392 年、2013 年 3 月 21 日～2014 年 3 月 21 日）、約 6,000 人のイラン人労働者が国外へ派遣されるだろうと述べた。労働者らは、トルコ、イラク、豪州、カナダ、その他欧州各国に派遣される。

2. グルジアによる口座凍結 (7月4日付イラン・デイリー紙)

この2年間、グルジアへのイラン人による投資が拡大してきた中で、グルジア政府は、米国主導の対イラン制裁に沿う形で、イラン企業・イラン人が保有する 150 の口座を凍結した。2012 年 3 月～2013 年 3 月の両国間貿易は、イランからの輸出が 1 億 800 万米ドル（主に衣類など）であったのに対し、グルジアからの輸出は 3,800 万米ドル（主に機械類など）であった。

3. 野菜の生産量 (7月6日付イラン・デイリー紙)

農業開発推進省は、イラン国内における野菜の生産量が、フーズスターン州およびマーザンダラーン州を中心に、年間 220 万トンに上ると発表した。1 ヘクタール当たりの生産量は 27 トンとなっている。

4. 中国人労働者の増加 (7月7日付イラン・ニュース紙)

全国で最も失業率の高い西部ロレスターン州にて、中国人労働者多数がダム建設現場に従事している。政府高官は度々、開発プロジェクトにおける「自給自足」を叫んでいるが、その発言とは裏腹に、中国人労働者が圧倒的な存在感を示している。

5. 仏ルノー社とイラン自動車産業 (7月13日付ハムシャフリー紙)

イラン自動車部品工業会の会長は、仏ルノーがイラン国内での活動を停止しているとの一部報道を否定し、イランにおける自動車産業を取り巻く問題に注意を払いつつ、イラン事業の継続を模索していると述べた。

6. 仏ルノー社とイラン自動車産業 (7月16日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

あるイラン自動車製造会社は、ルノー・ブランドで生産されるトンダル 90 が、国産率の高いプジョー 206 に代替されるとの報道を否定し、「トンダル 90 の部品供給は引き続いており、ルノーは、イラン市場での活動を継続する意思を示している」と述べた。

7. ダム貯水量（7月17日付イラン・デイリー紙）

現在のダム貯水量は251億立方メートルであり、2012年同期の233億立方メートルを越える貯水率52.4%を記録している。イラン国内に145あるダムの現在の貯水能力は約500億立方メートルであり、2014年3月までに、さらに15のダムが完工する予定である。

8. サーパー社の損失（7月20日付イラン学生通信）

イラン自動車大手スーパーは、2013年3～6月期において、約5万2,000台生産したものの、1兆リヤール（約3,125万米ドル）の損失を計上したことが、業界関係者によって明らかにされた。損失の主な要因は、政府による価格統制で小売価格が抑制されていることだとしている。

9. イランの自動車輸出（7月21日付イラン・デイリー紙）

2013年3～6月期における、イランの自動車輸出台数は1,126台、輸出額は約900万米ドルであったとイラン税関が発表した。主な輸出先は、イラク・アゼルバイジャン・ウクライナであった。なお、2012年3～6月期における輸出台数は14,570台、輸出額は8,100万米ドルであり、同期における非石油輸出額の10.6%を占めていた（注：イラン税関によると、2012年3月～2013年3月までの自動車輸出額は3億2,500米ドルで、非石油輸出額の約1%）。

10. 仏ルノー社とイラン自動車産業（7月21日付イラン・ニュース紙）

イラン・ホドロのタガヴィーネジャード戦略・計画担当副社長は、「ルノー・クリオ（日本名：ルーテシア）」のType3およびType4の生産実施を、仏ルノー社との間で合意したと発表した。同副社長は、ルノーは今までイランに巨額の投資を行ってきており、その一環として、イラン・ホドロと様々な分野での提携を模索してきたと主張した。「ルノー・クリオ」は、ルノー・ブランドにおける小型車で、2012年から4代目がリリースされている。

11. イランにおける自動車生産（7月21日付イラン・ニュース紙）

商業・工業鉱山省次官は、制裁下にもかかわらず、来月より、イランにおける自動車生産台数が3,000台/日以上となると発表した。同計画を遂行するのは、イラン・ホドロおよびスーパーの大手2社となるという。

12. イラクへの天然ガス供給（7月22日付IranOilGas.com）

イラン石油省のオウジー次官は21日、イラクの首都バグダードにおいて、イラクへの天然ガス供給に関わる契約を正式に締結したと述べた。イラン側のパイプラインの起点はアサルーイエ（ペルシャ湾沖にて巨大な埋蔵量を誇るサウス・パールス・ガス田に近い南部都市）であり、ここから、イラク側の発電所までパイプラインが接続する予定である。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799